

視察報告書 2年10月28作成 保守の会 吉田つとむ

調査事項 1 「少子化対策～自治体からの検証・提言」

講師：泉房穂 氏（明石市長）

明石市は、神戸市の西側に隣接する人口30万人規模の都市で、東経135度の子午線上に天文館があり、明石海峡大橋や食べ物では明石のタコが有名です。8年連続で人口が増加し、出生率も1.70（全国平均1.36、兵庫県1.41）も誇りにしています。人口の年齢分布では、25-60歳未満が高い比率で増加し、15-20歳未満と50-60歳未満で人口減少を示しているのも特徴だと思います。そうした点を町田市との比較で調べる、比較をすることが必要だと思いました。



<所感>

泉市長が推進：人口・出生率増

子育て支援策は、世帯の所得に関係なく支出され、第2子、第3子があってもそれを育てやすい施策を取り込み、いわゆる「中間層」を取り込む政策導入が特徴にしているとのことでした。それが、出生率のアップにつながっているのでしょう。



所得制限を排した施策導入で中間層の流入増

今回の新型コロナ対策でも、子育て世代に1万円上乘せ、高校進学奨学金給付型30万円、未就学児に絵本の宅配便、ひとり親家庭に児童扶養手当5万円上乘せ、赤ちゃん応援給付金10万円、こどもの養育立替5万円、テイクアウト・デリバリーこども食堂（1回2万円を領収書なしで支援）を導入しています。もちろん、この中には、町田市も導入したのものもありますが、子育て支援策では、所得制限を設けていない特徴があり、中間層の流入も生じている。それが、市民税、固定資産税、都市計画税の増収につながっているようです。

市勢の興隆

中間層が増加したことで、住宅需要の増加が実現し、中心市街地の来場者が目立って増え、駅前の新規出店が年間目標12の店舗数が倍の24店舗になっているとの資料が提示されました。また、地価が7年連続で上昇とのことでした。よって、生活満足度が関西圏1位になっています。



町田市との比較について

明石市の恒常的な政策では、平成 30 年に中核市になり、児童相談所設置市となっています。私は、以前からのこの双方の持つことを本会議の一般質問で求めています。町田市は、その二つの機能を持つ考えを示していない点で大きな差異があります。



もとより、泉市長自身が感じておられることですが、全ての世代に支持をされているという訳ではなく、予算も子育て世代に重点特化した、あるいは施策の有る無しを所得制限では設定していないのが、明石流の特徴になっているものと思います。